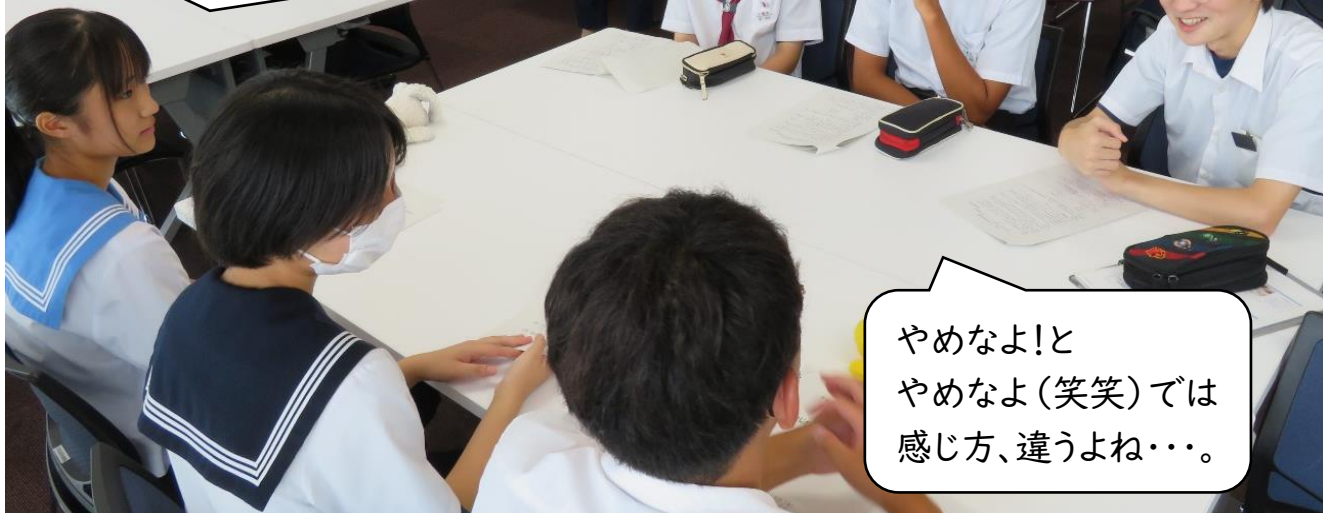


見て見ぬふりじゃなくて
中立でいることが大切
だと思う。

既読スルーって
いじめになる？

やめなよ!と
やめなよ(笑笑)では
感じ方、違うよね・・・。



いじめ防止ラウンドテーブル開催

～いじめ防止に積極的に取り組む中学校が集結！～

福島県教育庁義務教育課では、不登校・いじめ等対策推進事業の一環として8月18日、コミュニティ福島において「いじめ防止ラウンドテーブル」を開催しました。この取組は、いじめ防止に積極的に取り組む中学校が推進校となり、各校での取組を発表したり、意見を交流したりする活動を通して、「生徒の目線によるいじめ防止の考えを広めよう」とする取組です。「はま・なか・あいづ」を代表して参加した3つの中学校の活動の様子と、互いに意見を交流し更なるいじめ防止を目指そうとする生徒の様子をお届けします。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 【白河市立白河中央中学校】の取組発表より  ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

一人一人がいじめについて考える「いじめ撲滅全校フォーラム」を開催し、代表生徒は白河市の「『いじめ』について考える中学生フォーラム」に参加しています。「いじめをさせない、許さない、見逃さない」を合い言葉に生徒会がいじめに関するアンケートを実施し、結果をもとに学級ミーティングを行うことで、いじめと向き合う風土をつくっています。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 【下郷町立下郷中学校】の取組発表より  ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

生徒会スローガンは「リスペクト アザーズ」。そこには「互いを思い合い、多様性を認め合おう」という願いを込めました。一枚の葉が、やがて木や林、森となり、世界中に広がるように、一人一人がいじめを防止する行動を起こそうと「レッドリーフ運動」に取り組んでいます。「哲学カフェ」では、テーマに沿って考えを発表する力をつけています。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 【広野町立広野中学校】の取組発表より  ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

全校生の半分は広野町の生徒、半分はサッカーのアカデミー生として入学して来ます。私たち広野中にはそのような仲間たちが集まって学校生活を送っています。学級や学校全体で「いじめゼロ」に向けたスローガンを掲げ、「学校が楽しい」と思える時間を作ろうと親睦を深めた「スプリングレク」、夏に向けて整備委員と一緒に育てたひまわり等、季節ごとにみんなの力で楽しい学校づくりに取り組んでいます。

いじめ防止を推進する、生徒同士の語り合い

～「SNSによるいじめと、どう向き合う？」～

いじめ防止ラウンドテーブル、後半は各校3つのグループに分かれ、45分間たっぷり意見交流を行いました。テーマは「SNSによるいじめと、どう向き合う？」です。はじめはポツリポツリとお互いへのインタビュー。「…自分のスマートフォン、持ってます？」「タブレットの持ち帰り…してる？」「休み時間とか自由に使ったり、してる？」…。意見交流は、次第に盛り上がり、時には沈黙したりしながらも、互いに本音をつぶやいていました。周囲の大人たちは、生徒の口から語られるつぶやきの一つ一つに、じっと耳を傾けます。例え、全員が黙り込む時間があっても、この時間は生徒たちだけの時間。沈黙も、自分と向き合い考えている証拠。語られる言葉には、いじめを止める力があると信じて。

メールの打ち方が早くて追いつかないときもある。無視してるわけじゃないけれど、返信が遅いとそう思われちゃうかなって。

既読スルーも人によってはいじめと捉える人もいる。みんなは、どう思う？

文面だけだと伝わり方が変わってくる。「！」や「？」が付いただけでも感じ方が違う。短文だと余計伝わりにくい。



悪口だけでなくグループ外しというのもSNSではいじめになる。

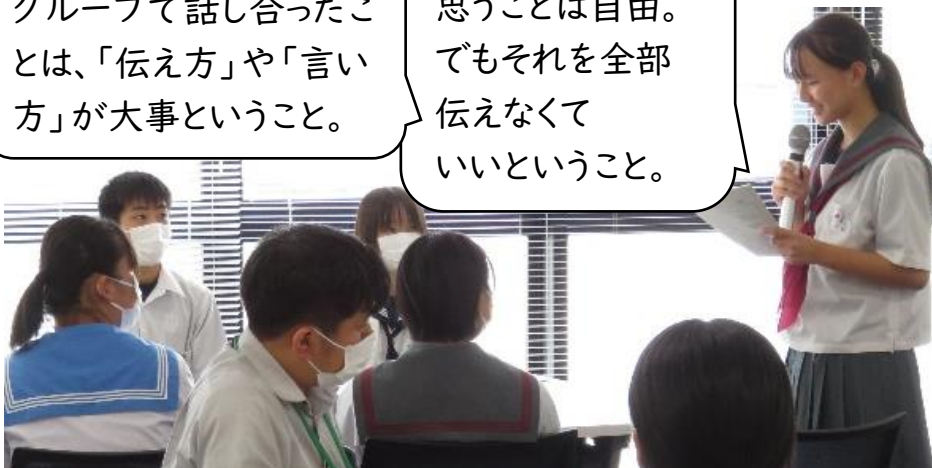
言葉一つに重みがある。でも、匿名だと言葉の重みを感じないで書いてしまうんだと思う。

いじめはほとんどがいじり。それを重く捉えるか軽く受け流すかで違って来るんだよね。

タブレットを活用した「いじめ」の報告や訴えが、できないかな。

グループで話し合ったことは、「伝え方」や「言い方」が大事ということ。

思うことは自由。でもそれを全部伝えなくていいということ。



推進校の皆さんは、互いの考えを聞き、刺激を受けたようでした。いじめ防止を推進する取り組みは、今後も引き続き行われ、2月には各校の取り組みをまとめて義務教育課のホームページに掲載する予定です。ぜひご覧ください。

いじめ防止ラウンドテーブルに参加した感想



白河市立白河中央中学校

- 白河中央中学校の長所と短所を確認することができました。
- SNS いじめについて具体的な問題点や対策を様々な方向から話し合うことができました。
- 自分が善と思った行動も相手にとって不快と思ったりいじめになるという考えに共感です。
- 「レッドリーフの木」を全校で育てる、標語を階段のステップに貼り「見える化」を図るなど、自校では行っていない取組があり、今後の活動で検討していこうと思いました。
- 他校生とSNSいじめについて意見交流を行い、現在の学校や世の中の問題点や改善策を話し合いました。同世代の考えを取り入れ、自分の考えをさらに深めることができました。
- 定期的に「哲学カフェ」を開催し、一つのテーマについて話し合う取組が参考になりました。
- 初対面の方とのディスカッションでも沢山得ることがあり、自分たちの言葉で話し合うことができました。
- 目安箱をデジタル化するという意見は、今後自校でも活用できそうだなと思いました。



下郷町立下郷中学校

- 学校のタブレット端末を授業以外でいじったり、ゲームをしたりするなどTPOを考えないで行動している生徒について、自由に使うことができる分、使う責任があると感じました。
- たくさんの考えを聞き、自分の考えと比較し、みんなで新たな考えや解決策を見出すことができました。
- 全校生で課題を見つけ、全員で解決しようとする意識づくりができる点が素晴らしいと感じました。
- 各校ごとにいじめの状況が違って、状況に合わせて様々な活動を行っていることが分かりました。
- 初対面でも相手の話をよく聞くことで、相手を理解することができると思いました。
- いじめを防ぐには話し合いをして、相手を尊重することが大切だと感じました。



広野町立広野中学校

- 力を入れて活動してきた「いじめゼロ運動」について伝えられるよい機会になりました。
- グループで話し合う際には、リーダーシップをとっている人やまとめている人など、協力的に話し合いを進めることができました。
- 身の回りで起きているいじめをおさえる工夫を見つけ出したり、その工夫は実際どのような効果があるのかを調べたりして、いじめに対する考えや思いなどを改めて見返すことができました。



推進校の皆さんの意見や感想から、なんとかいじめをなくそうという強い思いを感じます。
ラウンドテーブルでの交流を生かし、各学校や地域に、皆さんの思いを発信し続けてください。